

前回委員会のご意見と対応状況 一覧

番号	委員意見等	対応状況
議題1: 公園全体の植栽方針(主に植栽管理の方針)について		
1	方針14の安全管理重点地区の表現について: 重点地区と言うには随分広い。	資料1-8頁: 安全管理重点地区は、安全管理推進地区に修正。
2	方針13管理技術の維持・向上、方針14重点地区等 について: 分けているのでわかりにくくなっている。方針13と 14を連動させて、少し組み込ませるとか、構成を考 えた方が良い。	資料1-8・9頁: ①方針13と14を組み合わせ、文章構成を修正。 ②庭園管理地区等の文章表現を修正。 ③各種地区の指定範囲を部分的に修正
議題2: 国際フォーラム庭園植栽計画について		
3	明治の頃のものが今どう残しているのかということ についてデータとしておくことが必要である。	資料2-2頁: 「I-1計画地の特性 (2)歴史的な経緯」に葦建設 時点での地形保全状況のデータを加えた。
4-1	計画方針について: 計画方針のどこかに「変化に富む質の高い」、し かも植栽・景観ではなく、「植栽の変化とか、ときに 眺望を活かしながら変化に富む質の高い景観を作 り出す」ということが、この庭園の計画方針の中 で一番大事なことではないと思った。そういうシーク エンスの変化も大切にしながら管理をしていくと言 うようなことも少し盛り込むことができないか。	資料2-13・14頁: ①計画方針を修正。 日本庭園として ⇒庭園空間として 質の高い植栽・景観⇒質の高い風景 ②回遊動線の考え方を新規追加。
4-2	計画方針について: 空間的特質と魅力の源泉はどこにあるのかとい うことを示した方が良い。立地、地形や空間の構成 要素をしっかり抑えた中での位置づけをすれば良 いのでは。これは意図的に造られた庭園なので、ど こかで庭園の魅力についてデータを整理した上で、 計画とする必要があるのだろう。	資料2-8～11頁: 「I-3計画課題の整理」に魅力資源の活用検討の項 目を追加し、魅力についてデータを整理・分析した。
5	図: 計画方針(案)「アカマツとサクラの・・・」につ いて: 遠くからサクラを見せるには、近くに濃い緑が必 要ということだろう。	資料2-14・15頁: ①図: 計画方針(案)の当該部分を修正 遮蔽のため⇒背景植栽として ②図: 計画目標(案)の当該部分を修正 「サクラ類の背景の緑として配慮する」を追加。
6	庭園の整備目的について: ベースとしてどんな人が訪れても、どんな利用状 況においても一定の気持ちよさを提供できるような 空間づくりを第一に置くべきかと思う。	資料2-13・14頁: 多様な利用に資する空間づくりという考え方は、計画 方針や回遊動線の考え方に含めるものとした。